

宮ノ陣ビオトープ新聞

第4号

(2017年7月)

宮ノ陣学びのビオトープ

2016年9月創刊 季刊

発行

くるめハイトラスト株式会社

久留米市宮ノ陣町八丁島 2225 番地

〒839-0805 TEL0942-27-7515

協力 株式会社エコプラン研究所

宮ノ陣学びのビオトープから
生き物や季節の情報を
お伝えし、豊かな久留米市
の将来へのライフスタイル
を提案する新聞。

ホタル観賞講座「親子でホタルを見にいこう」は、宮ノ陣学びのビオトープにホタルが生息できるため、何をすればいいのか、実際に生息場所を観察するものです。

野生の生物には、それぞれふさわしい生息場所があり、様々な条件により生息できるか、できないかが分かれまゝす。いきなり現地に行くのではなく前段として、三月十八日(土)に、ホタルの専門家を講師に招き、ホタルのくらしや生息する場所の特徴などを学ぶ座学講座「ホタルのくらしを知る」を開催しました。

ホタルは何を食べているの？

ホタルの卵や幼虫、サナギの時期は、どこでどのようなくらしをしているか、など知らないことの方が多く、宮ノ陣クリーンセンター環境プラザに集まった受講生は、大きなスクリーンに映し出される写真や講師の話に釘付けになりました。



講師よりスライドを使いながらホタルのくらしの解説

【ゲンジボタルに関する豆知識】 抜粋

- なぜ光る？ → オスとメスがコミュニケーションするため
- 光る間隔は？ → 2秒光って、2秒休む(西日本の場合)
- 幼虫はどこに住んでいる？ → 流れのある川の中
- 幼虫は何を食べている？ → カワニナ(巻貝)
- 成虫(おとな)は何を食べている？ → 食べない(夜露くらい)
- 成虫は明るい時間帯はどこにいる？ → 葉や草の裏など
- 体長はオスとメスのどちらが大きい？ → メス(卵を抱えるため)
- 産卵する場所は？ → 川岸の苔に産み付ける
- 卵は光る？ → 光る

わぁ！きれい

ゲンジボタルがたくさん飛んでいる！
ゲンジボタルのくらしを実際に見て
知る親子講座を開催！



葉の裏に隠れていたホタルの成虫を観察する受講生(ホタルは観察後、リリース)

宮ノ陣学びのビオトープでゲンジボタルが見られるよう、様々な内容で講座や活動を行う一つとして、きれいに光るホタルが飛び交う光景を実際に見たり、ホタルが多い環境について学んだり、親子で考える講座を開きました。



ビオトープの観察

講師の話聞いた後、宮ノ陣学びのビオトープの状況を改めて観察してみると(右写真)、幼虫が生息できる水の流れる場所もあり、サナギが住める土壌もあります。しかし、幼虫の餌となる巻貝のカワニナは生息していないこと、カワニナが生息するため付着できる小石がないことなどがわかります。人間の家で言えば、建物は完成したが、家具や食料がない状態ということなのです。

では、小石を入れて、カワニナが生息できるようにするだけでいいのでしょうか？他に必要な条件はないでしょうか？そんなことを確かめるため、ホタルが飛翔する時期に実際に見に行く観賞講座を企画しました。

ホタル観賞講座の当日の六月十日(土)、梅雨時期であるため、雨が降って中止になったり、ゲンジボタル(以下、ホタル)があまり見られなかつたりするのは…との心配をよそに、雨は降らず、暗くなると多くのホタルが飛び交う様子が見られ、受講生からも感嘆の声があがりました。

訪れた場所は、久留米市南東部の耳納山南麓地域にある「一ノ瀬親水公園」(久留米市高良内町)です。この公園は『四季を見る・体験する公園』をテーマとし、園内を流れる高良川の水に親しめる親水広場の他に、直径六メートルの大型水車、農機具を展示している水車小屋、約三十名を収容する交流棟、ゆつたり憩える芝生広場、見晴らしが素晴らしい展望広場が整備され、駐車場、トイレもあります。さらにホタルが生息できるホタル水路も整備され、お子様連れでも安全にホタルを観賞するのに適した場所と言えます。

座学を踏まえて生息場所へ

ホタル観賞講座「親子でホタルを見にいこう」の会場である一ノ瀬親水公園は、高良川の清流に多くのホタルが飛び交い、飛翔時期の毎年六月初旬には、ホタル祭りが開かれ、多くの市民で賑わうなど、ホタルの観賞ポイントとして知られています。

この観賞講座では、飛翔観賞だけでなく、日中の明るい時間帯においても、ホタルの生息場所の特徴を知るため、河川敷で川の中の様子、川の周りの様子なども観察しました。幼虫の餌となるカワニナがどんな場所にいるのかを考えました。



カワニナを探す受講生

近年の集中豪雨では、死傷者を出したり、まち中への浸水、土砂災害やインフラ損壊に見舞われたり、大きな被害が見られます。これらの被害のうち、まち中への浸水の主な原因として、道路の側溝にゴミなどが溜まって排水されない、河川の水位があがり接続する下流河川で排水されにくくなる、河川の流下能力の容量を超える短時間の降雨、などがあげられます。様々な対策が行われていますが、宮ノ陣学びのビオトープの園路の舗装材は、このような都市の浸水の対策の一つとなるものなのです。



宮ノ陣学びのビオトープの地球にやさしい園路の舗装

天然素材だけの舗装材は、雨水を地面に浸透させて人にも生物にも地球にもやさしい



緩和したり、都市の気温が郊外に比べて高温になるヒートアイランド現象を抑制したりします。また、材料にも特徴があります。真砂土、山砂、竹（竹林保全活動で出た竹を粉碎化）、ニガリ（海水中の成分）の天然素材のみを水により配合しています。

このように、この舗装材は、人にも生き物にも、そして地球にもやさしい舗装材と言えます。

コサギ

- 白色の体をしているところからシラサギと呼ばれることがあるが、シラサギという種名の鳥は存在せず、概ねコサギかチュウサギかダイサギのいずれか
- 体長は約 60cm で、夏も冬も黒色の長いクチバシと黄色い足の指が特徴（チュウサギとダイサギのクチバシは、冬は黄色）
- 夏は2本の長い冠毛が生える
- 宮ノ陣学びのビオトープには池や水路の魚を食べるためにやってくる

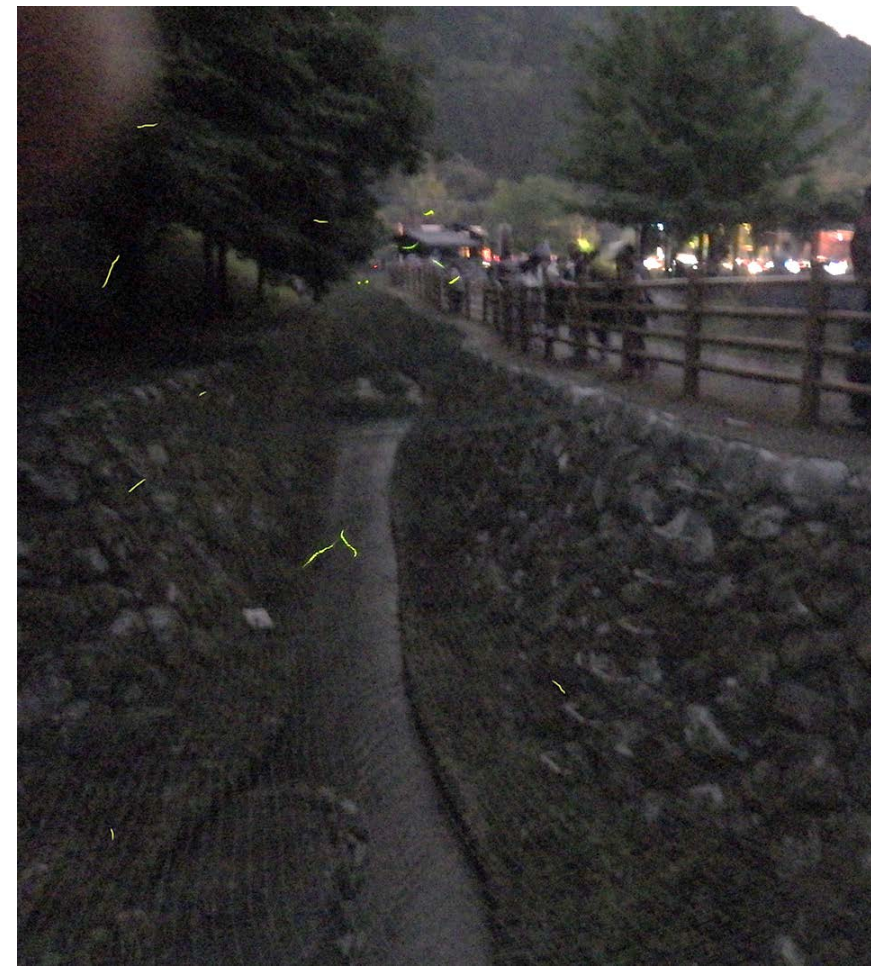


「宮ノ陣ビオトープ」に生育する木や草、生息する魚、昆虫、鳥や季節の情報をお伝えします。
第4回は、「コサギ」です。



【宮ノ陣学びのビオトープ ご利用案内】

住所 〒839-0805 久留米市宮ノ陣町八丁島 2225 番
開園時間 9:00～17:00
休園日 毎週水曜日（休日の場合は翌日）、12月29日～1月3日
アクセス 車/国道322号沿い、駐車場有り
電車/西鉄古賀茶屋駅から徒歩約15分
問合せ くるめハイトラスト株式会社
TEL/0942-27-7515
FAX/0942-27-7491



ホタルを観賞する受講生(写真の明るさは加工調整)

きれいだね！ホタルの光
時刻は午後八時を迎えようかという頃、会場では「あ、光った！」という声がチラホラ聞こえ始めました。
一般的には、ホタルの飛翔が多く見られるのは、曇天の蒸し暑い気候で、時間帯は午後八時から十時頃と言われます。

この日は、それほど蒸し暑くはありませんでしたが、曇っていて、暗くなるにつれてきれいに光るホタルの飛翔をたくさん確認することができました。八時を過ぎ、空が暗くなると、ホタルの数はさらに増え、点滅する間隔（西日本）のゲンジボタルは二秒光つて、二秒休むを確認しながら観賞しました。

受講生の感想・意見（抜粋）

- ✓ 幼虫の餌も大切だけれど、成虫が日中に隠れる木（葉）や草も必要
- ✓ 光ってコミュニケーションすることがしやすいよう暗いことが大切
- ✓ ごみのポイ捨てをなくし、川をきれいにする
- ✓ 初めてホタルが見られて嬉しかった

一ノ瀬親水公園では、たくさんの方のホタルを見ることのできました。観賞後、受講生からは、左に記すような様々な意見や提案が出されました。さらに、私たちがすぐにできることとして、ホタルなど生き物の生息場所を守る提案も出されました。

講座で学んだり、考えたことを次の取り組みに活かすため、川の魚を観察したり、宮ノ陣学びのビオトープにホタルの幼虫が生息できるようにするため、小石を集めて水路底に敷いたりする下記のような活動を予定しています。

宮ノ陣学びのビオトープ夏季市民講座

「川の生き物探し大作戦・夏」

- 日にち：8月20日（日）※少雨決行・荒天および河川増水時中止
- 会場：【集合/解散】宮ノ陣クリーンセンター
【活動】一ノ瀬親水公園
- 内容：水辺の生き物探し
・高良川（一ノ瀬親水公園付近）に生息する魚の観察
・ホタル幼虫のエサとなるカワニナの捕獲 など
- 対象：小学生と保護者（未就学児の兄弟姉妹の参加は可）
- 定員：15組

参加者募集

- 費用：無料
- 服装：[水辺の活動]濡れても良い長ズボンと長袖シャツ、ひもかマジックテープで締められるスニーカー、帽子
- 持参：着替えの服と靴、タオル（汗拭き）、バスタオル（体拭き）、飲料
- 申込：くるめハイトラスト（左記）までお電話またはFAXで
※ 8月8日（火）より先着順に受付、定員になり次第締切り